懇　談　会　要　旨

会議の名称	第３回　川の国埼玉はつらつプロジェクト新河岸川活用推進懇談会
開催日時	平成 30 年 7 月 27 日（金） 10 時 00 分　開会　・　11 時 00 分　閉会
開催場所	川越市役所　7AB 会議室
座長（委員長・会長）氏名	座長　田中　三喜雄
出席者（委員）氏名	副座長　宮本一彦　　相談役　山田禎久 委　員　三好　勝、森田正治、荻野　貴、根本元始、小松正彦、鈴木眞司、村田一男、西村秀男、町田雅男、森脇康行、金子勝美、武田侃蔵、加藤忠正、安藤暢彦、大塚信孝、長岡聡司、坂井直之、太田康之、高橋宗人、山崎　茂、相川　満、小林　武、小林孝至、前島清孝、染谷経夫、松本秀規 （委員代理含む）
欠席者（人数）	１名
事務局職員職氏名	観光課　副課長　中村　誉、主査　福井周平、主事　大泉将大
傍聴人（人数）	なし
懇談会次第	１　開会 ２　あいさつ ３　議題 ４　その他 ５　閉会
配布資料	・次第 ・資料１…川の国埼玉はつらつプロジェクト新河岸川整備計画（案） ・資料２…川の国埼玉はつらつプロジェクト新河岸川スケジュール ・資料３…高沢橋エリア整備構想図（案）

議　題　の　経　過
１　開会（事務局） ２　あいさつ（座長） ３　議題（事務局） （１）整備計画案について ①高沢橋エリア ・親水空間の創出を検討。 ・階段形式護岸や元町公衆トイレ改築等の整備により、地域催事の活用や新河岸川沿いに回遊する起点となるスポット作りを検討。 ②東明寺エリア ・氷川神社エリア・高沢橋エリアの中間連結区域として、高沢橋から濯紫公園を経て東明寺橋、さらには氷川神社エリアへと散策を促す。 ・当エリアは水辺再生 100 プランにおいて親水空間としての整備は完了しているため、当プロジェクトでは広済寺・東明寺への誘導を促す案内看板を設置するとともに、街路灯を設置する整備を検討。 ③氷川神社エリア ・春の桜や縁結び風鈴により当エリアは観光客が多くいるので、東明寺エリア・高沢橋エリアへ誘導していくスポット作りを検討。 ・ハード面では散策路整備と併せて、案内板やベンチなどの設置を検討。 ・ソフト施策も平行して検討していく。 ④その他（第２回懇談会での質問に対する報告） ○観光舟運について ・一部区間であっても、通年での運用・運営をするには、可動堰の整備が必要である。近年、集中豪雨などもあり、水流れを阻害するような工作物の設置（可動堰）には慎重な対応が必要であり、現状では通年を通して舟運を行うための景観形成も整っていないため、現時点では難しいと判断した。 ただし、現状１日のみ実施している舟運事業を桜の時期に 10 日間前後、期間限定で対応するよう観光協会と検討している。 ○桜について ・当プロジェクトとは別の場で検討を続けたい。まずは他市の事例を収集していきながら、検討を進めていきたい。 ○田谷堰について ・市文化財保護課と意見交換を行ったが、近代化遺産としての意義は十分にあるが、田谷堰は昭和の建設ということもあり、現時点ですぐに文化財指定という動きはないようである。意見交換時には、堰の板や鉄の部分の錆び・腐食が逆に良さでもあるとの意見もあり、継続して検討を進めていきたい。

○石原橋下の右岸散策路について

・現状は石原橋下右岸側の散策路が赤間川公園まで延びておらず、左岸側に飛び石で渡り上流へ向かうようになっている。川越県土整備事務所に確認してもらったところ、石原橋右岸側に、市中心市街地からの水路があり、高水敷きの歩道を赤間川公園まで延ばすと通水の妨げになるとの考えがあり、飛石で左岸に渡るということになったようである。

⑤高沢橋エリア整備構想図（案）　（川越県土より説明）

・親水空間の形成と同時に休憩スペースの用途にも繋げられるため、既設の右岸側の階段幅を広く改修する案を検討している。

・左岸側のり面に腰掛けられるような護岸型式を検討している。

・一部低水路護岸の木柵修繕を昨年度より実施している。

・平成 30 年度　階段工一部着手
　平成 31 年度　左岸側のり面工事、低水路護岸整備
　平成 32 年度　低水路護岸整備（残り）を予定している。

（２）今後のスケジュール（案）について

・川の国埼玉はつらつプロジェクトは平成 32 年度までのため、早急に骨子部分（高沢橋エリア→埼玉県整備・川越市整備、　東明寺・氷川神社エリア→川越市整備）の計画策定を進め、今秋の予算計上、予算確保に努めてまいりたい。

・各エリアの整備における詳細部分は、川越県土、コンサル及び市の建設部等も交えながら技術的見地のもと、分科会で詰めていきたいと考えている。

（３）質疑等

・田谷堰～氷川橋区間について水草が繁って景観的によくない。当プロジェクトと併せてここのところの整備方針はどのように考えているか？（委員）
　→水草が繁っていることは確認している。ご指摘の件については関係機関と調整してどのようなことが出来るのか検討していきたい。（事務局）

・アユの稚魚を放流することで、水辺に親しまれる空間となるように、自分達の団体内で合意形成を図っていきたいと思う。（委員）
　→情報提供をお願いしたい（事務局）

・濯紫公園まで来る人が、階段を上がってからどこに行けばいいかわからないという現状である。東明寺や川越夜戦跡、田谷堰等の観光資源が数多く存在する中で、当プロジェクトにより、人の流れをどのように整理するか、郊外に人を回すための手法をどのように作るかが重要になってくると思われる（委員）

→中心部に来る観光客をいかにして回遊させるかは長年の課題であった。隠れた観光資源が多くある東明寺エリアにどのように誘導させるか、どのようにＰＲしていくか、今後も色々なご意見をいただければと思う（事務局）

・雨が降ると、田谷堰のブロックにゴミがたまってしまい、現在は地元で川の上までゴミを運んだ上で、市環境部に対応してもらっている。また、ゴミゼロ運動の際に田谷堰～道灌橋の河川高水敷に直径１ｍほどの穴があいていたことがあった。

田谷堰にたまっているゴミを上まで運んでもらうことは可能か？また、新河岸川の管理者が埼玉県、川越市のどちらになるか教えてもらいたい。（委員）

→現状では溜まったゴミを上まで運ぶことは難しい。運ばれたゴミを減免対応や特別収集で回収することは可能である。（委員）

→基本的に河川区域内は埼玉県、河川区域外（市道等）であれば川越市の管理となる。もし管理者が分からなければ、市に問い合わせていただければ、適切な管理者につなぐようにしたい。（委員）

・予算額等の提示もないため具体的な話もできず毎度机上の空論になってしまう。整備ビジョンが見えてこなく、平成３２年度までに本当に終わるのか不安である。（委員）

４　その他（事務局）

・今後は整備における詳細部分を検討することになるため、基本的にはエリアごとの分科会を中心として進めていく。

計画全体に関わる課題等があり、委員全員の意見を伺わせていただく必要が生じた場合に懇談会を開催させていただくこととする。

５　閉会